

令和4年度 藤島地域主要事業(経過)

藤島地域まちづくり未来事業【予算額 23,011 千円】

合併の理念である「多様性の発揮」を実現するために、地域振興計画に基づき全市域で地域の特性を活かしたまちづくりが進められてきた。令和元年度より地域まちづくり未来事業が本格的にスタートしたのを機に、新・地域振興計画も策定され、「農業振興」、「ふじのまちづくり」、「くらし」に関わる3つの基本方針を設定するとともに、地域の未来に活力を与え、明るい希望が持てる地域社会を実現しようとする、「藤島地域まちづくり未来事業」を核とする地域振興に資する取り組みを展開する。

令和4年度は以下の3つの基本方針の中で、18の個別事業に予算が配当され、各課で取り組みを図っている。

○基本方針1 「豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現」

【予算額:5,806 千円】

- ①藤島発！！鶴岡の米プロジェクト >3 事業
- ②藤島発！！園芸作物拡大プロジェクト >1 事業（再掲）
- ③食農教育等を通じたふるさと意識の醸成 >2 事業
- ④庄内農業高等学校・首都圏大学との地域連携の推進 >2 事業（1 事業再掲）

○基本方針2 「歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進」

【予算額:12,594 千円】

- ①藤島歴史公園「Hisu 花」を活用した藤島地域の魅力発信 >3 事業
- ②住民協働による藤棚等の適正な維持管理の推進 >4 事業
- ③伝統芸能の育成と地域コミュニティづくり >2 事業

○基本方針3 「くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築」

【予算額:4,611 千円】

- ① 自立分散型インフラ整備の推進 >2 事業
- ② 子育て世代から選ばれるための支援の充実 >1 事業
- ③ 健康でいきいきと暮らせるしくみづくり >3 事業（再掲）

(総務企画課)

1 藤島歴史公園関連事業(まちづくり未来事業枠)【予算総額 4,412 千円】

- ・藤島歴史公園「Hisu 花」魅力発信事業 [予算額 3,311 千円]
- ・藤島歴史公園「Hisu 花」から始まる地域づくり事業 [予算額 300 千円]
- ・東田川文化記念館利活用事業 [予算額 763 千円]
- ・ふじ管理エキスパート養成支援事業 [予算額 454 千円]

藤島歴史公園「Hisu 花」をテーマ性のある重要な藤島地域の地域資源と捉え、交流拠点化と賑わいづくりを進める「Hisu 花」ワークショップを令和4年度も既に5回開催し、本市を代表する冬のイベントとなった藤島イルミネーションを11月3日より開始し、1月9日までの期間で実施する。なお、3年ぶりに点灯開始イベント「Hisu 花 de ないと 2022」も開催され、雨天の中、2,000名の来場者を集めた。

また、「見ごたえのあるふじ」の育成に向け、地域に根差した公園づくりを推進するため、藤棚管理ボランティア団体「藤友会」への補助金の支援や花壇定植活動に取り組む市民団体「花咲かせ隊」と庄内農業高等学校との連携による公園内への400株の花苗の定植を行い、年間を通した花のある公園を目指す活動の支援を行った。また、オフシーズンのイルミネーションの他、ふじの花まつり期間中のライトアップも実施した。

隣接する東田川文化記念館では、館内指定文化財の歴史的価値を深める活動の支援や利活用に関するワークショップを昨年に続き開催し、今後の利活用プラン策定につなげてゆく。

これらの藤島歴史公園関連事業をとおり、歴史公園一帯を藤島地域の魅力の発信拠点、活動拠点として、誇りと愛着をもって暮らしていける地域づくりを推進する。

2 藤棚の整備事業(まちづくり未来事業枠) 【予算額 4,000 千円】

スポーツ課所管施設となるが、ふじのまちにふさわしい環境整備を図るため、藤島体育館周辺の老朽化した木製藤棚を複数年(R1~R7)かけ計画的に整備する。令和4年度は7スパン分をメッキ鋼製の藤棚に交換する。

3 長沼・八栄島地区地域公共交通導入事業(まちづくり未来事業枠)

【予算額 3,187 千円】

公共交通空白地域となっていた長沼・八栄島地区に令和3年6月より地域が運行主体となる公共交通の導入が図られ、令和4年度も引き続きデマンド型タクシーによる実証実験運行を実施する運営協議会を支援している。令和4年

度の運行状況としては、前年並みの利用（月平均 50 回程度）で推移している。

4 藤島地域公共交通調査事業(まちづくり未来事業枠) [予算額 794 千円]

路線バスの廃止も視野に入れながら、既存の地域公共交通網を含めた藤島地域全体の公共交通の再編を行うための調査事業を令和 3 年に実施し、令和 4 年からは、調査結果を基に住民の利便性を第一に考えた公共交通網を構築していくための検討会を実施する予定となっていたが、交通事業者等の関係者との調整が難航している。引き続き協議の場を設け調整作業を進めるが、次年度への繰り越しも発生する。

5 コミュニティセンター修繕(小規模修繕枠) [予算額:2,821 千円]

鶴岡市渡前地区地域活動センター体育館東側屋根修繕・西側サッシ交換をはじめ各地区地域活動センターの修繕・備品購入等を実施した。

6 住民自治組織総合交付金 [予算額:19,093 千円(防犯灯除く)]

市から自治組織へ交付している複数の補助金等をまとめて交付することで、自治組織にとって自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として交付する。

7 防犯灯事業補助金

- ・自治組織等が負担する防犯灯の新設及び更新に対する補助金。

[予算額:650 千円(全市)]

- ・自治組織等が負担する防犯灯の維持管理に必要な経費に対する補助金。(総合交付金、単独補助金の合算)

[予算額:1,320 千円(藤島地域)]

8 鶴岡市藤島地域総合防災訓練

鶴岡市地域防災計画に基づき、災害発生を想定した訓練を鶴岡市消防団藤島方面隊が分団毎に計画し、例年どおり 9 月に藤島地域 5 箇所を会場に防災訓練を実施する予定であったが、コロナウイルスの兼ね合いで渡前地区のみ防災訓練を実施した。

長沼地区の各町内会及び自治振興会と共に情報伝達訓練及び避難所開設訓練を 9 月に実施し、災害時における対応の確認と定着を図った。

9 藤島地域文厚エリア未来プラン検討事業

藤島中学校の改築時期を数年後に迎えるにあたり、懸案となっていた同校周辺エリアにある公共施設再編と児童生徒の減少に伴う藤島地域の学校配置などについて、8 月の第 1 回藤島地域振興懇談会で取り上げ、教育委員会が主

体となる藤島地域教育振興会議を立ち上げ、検討していくことを決定した。

藤島地域教育振興会議（10/7 設置・委員 18 名）では、令和 5 年度までの 2 か年で、藤島地域の教育環境及び教育振興の今後の方針を検討していくこととなっている。今年度は 10 月 7 日、11 月 17 日に開催されており、今後、年度内にあと 2 回、次年度に 3 回開催が予定されている。

(市民福祉課)

10 長沼温泉ぽっぽの湯管理運営事業 [予算額 76,186 千円]

長沼温泉ぽっぽの湯活性化事業(まちづくり未来事業枠) [予算額 630 千円]

健康福祉増進施設となった長沼温泉ぽっぽの湯は、地元主体の指定管理者が運営を行い、フレイル予防事業を実施するとともに、自治振興会やスポーツ関連団体等と連携し、藤島庁舎各課と一体で利用者拡大に取り組み、10 月までの 7 か月で、前年度比 115.3%、コロナ禍前元年度比 84.8%となっている。

また、活性化事業（まちづくり未来事業）では、老朽化した施設前看板の書き換えを藤島中学校美術部に依頼し、10 月 30 日看板完成発表会を実施した。

11 健康づくり、介護予防事業

健康の維持増進を促進するため、健診業務を実施するとともに、受診率の向上に取り組む。また、安全に予防接種を行い、接種率の向上と感染防止を図る。

保健推進員や食生活改善推進員、地域包括支援センターと連携し、町内会、老人クラブ等で健康教室を実施し、講話や運動実技、調理実習等を通じて介護予防活動の推進を図り、いきいきと暮らせる地域づくりを目指す。

12 高齢者支援事業

老人クラブ等の活動支援、長寿祝品伝達等、高齢者を対象とした各種事業の実施を通して生きがいくつくりと社会参加を推進する。今年度も敬老会については、記念品等の配布となっている。

見守りが必要な高齢者に民生委員が訪問する支援事業や、高齢者福祉・介護保険による助成・給付事業を継続して実施する。

13 子育て支援事業

安心して子育てできる環境を確保するため、社会福祉法人「ふじの里」が指定管理者となっている藤島こりす保育園及び藤島くりくり保育園や、学校

法人「いなば学園」が指定管理者となっている藤島児童館の円滑な運営を支援する。また、放課後児童クラブ、子育て支援センターとしての施設の活動も支援する。

14 藤島斎場管理運営事業 **[予算額 8,863 千円]**

藤島斎場は、火葬炉 2 基を配置し 1 日に最大 6 体の火葬が可能で、年間 200 件前後の使用があるが、10 月末現在すでに 142 件となっている。

昭和 59 年稼働の施設・設備ではあるが、今後も火葬件数は増加すると見込まれることから、適切な維持修繕を行いながら運営していく。

15 藤島ふれあいセンター管理事業 **[予算額 5,283 千円]**

藤島ふれあいセンターの指定管理者は、今年度 4 月から中町町内会に委託した。新たな指定管理者と連携のもと、住民の自主活動を推進し、地域の活性化に資するよう進めていく。なお、隣接の市場であった普通財産部分は、令和 8 年 3 月末まで株式会社出羽マルシェに貸し付けている。

(産業建設課)

16 藤島地域人と環境にやさしい農業推進事業(まちづくり未来事業枠)

[予算額:846 千円]

先進的な有機農業技術の習得により品質向上を図るとともに、有機農産物等の安定生産を図る。

また、有機農産物及び独自認証米について、首都圏でのイベント交流や有機農業出前授業を再開し、販路拡大を図った。

このほか、全農業者を対象に G A P 認証の取得を啓発し、食品安全、環境安全、労働安全等の確保を推進した。

17 藤島農産物元気事業(まちづくり未来事業枠) **[予算額:1,806 千円]**

「藤島農産物元気食楽部」を核とし、生産者と農業関係機関が一体となった農業振興を図り、地域農業の活性化を推進するとともに、コロナの状況をみながら合同研修会等を開催し、後継者の育成を図った。

また、稲作と園芸の複合経営を推進し、認証制度の活用により生產品の均一化を図るとともに、低コスト化や省力化技術等を実証し、農家所得の向上を図った。

18 庄内農業高等学校地域連携事業(まちづくり未来事業枠)

[予算額:1,000 千円]

本市農業の人材輩出機関である県立庄内農業高等学校では、地域連携事業を展開し教育機関としての同校の更なる発展と魅力ある学校づくりの取組みを推進している。

引き続き、ユネスコ食文化創造都市鶴岡の魅力体験事業、農業の成長産業・6次産業化支援事業、庄農うどん大作戦支援事業、農・福連携地域交流農園支援事業、農業コンテスト出品等PR支援事業に取り組むことにより、地域の特性を活かした農業振興と地域づくり、地域活性化と同校卒業者の地元定着の促進を図る。

特に地元農家や事業者との連携、地元産原料を使用した加工品開発を推進する。また、庄農生の活動の発信強化を図り、同校のイメージ向上と入学生増加に繋げていく。

なお、庄農うどん大作戦は2021輝く県民活躍大賞を受賞、今年度は10月に行われた農業クラブ全国大会で入賞するなど同校のPRに貢献した。

19 藤島地域農の魅力拡大事業(まちづくり未来事業枠)[予算額:2,014千円]

鶴岡産米と豊かな田園、稲作に携わる人々の魅力を広く拡散し、ふるさと納税の「米」寄付額の倍増を図るため、若手農業者美味しい米コンクールを開催した。

また、藤島地域と関係の深い大東文化大学の学生による鶴岡産米PR動画の配信やイベント参加により鶴岡産米全体の価値の底上げを図った。

20 まつり振興事業(伝統芸能祭開催事業含む) [総予算額:4,360千円]

・「ふじの花まつり」 [予算額:1,500千円]

・「ふじしま夏まつり」 [予算額:1,470千円]

・鶴岡伝統芸能祭(まちづくり未来事業枠)[予算額:760千円]

・「ふじしま秋まつり」 [予算額:630千円]

主要観光事業である「ふじの花まつり・ふじしま夏まつり・ふじしま秋まつり」を新型コロナの感染状況に配慮しながら開催した。

藤島地域最大のまつりである「ふじの花まつり」は、5月14日(土)・15日(日)に3年ぶりの開催となり、ちょうど見頃を迎えた藤棚やライトアップされた幻想的な藤棚鑑賞に市内外からの多くの来場者で賑わいました。

「ふじしま夏まつり」は、まちづくり未来事業である鶴岡伝統芸能祭と、住民参加型のイベントを8月7日(日)に予定していたが、当日雨天のため中止した。焼肉フェスティバルは会場を変更し、食材のテイクアウトを行った。

11月6日(日)開催の「ふじしま秋まつり」は、「つや姫の里の収穫祭」と銘打ち、藁を使ったオリジナルイベントや初の試みである「鶴岡ごはん日

本一」を実施し、「米の里ふじしま」と「食と農による地域づくり」を広くアピールした。

21 建設関連事業

◇ 道路新設改良事業(本所土木課)

- ・ 上町中央線（上町派出所前）

継続事業となっていた十一屋側の歩道整備工事が完了し、供用開始した。

- ・ 藤島駅線（改良工事）

R 3 に実施した測量設計に基づき、工事に着手した。

◇ 道路公共事業(本所土木課)

- ・ 長沼地区冠水対策事業（長沼）本工事

長沼集落内の冠水被害を防ぐ排水対策工事を継続して実施した。

◇ 道路維持事業(まちづくり未来事業枠)[予算額:2,900 千円]

- ・ ふじのまちかど整備事業（25基の内6基分）

市道植栽マスの老朽化した藤棚の修繕を実施した。